運搬　生活文化

30まいん

とうたんさくどうちゅうけいしょ

東端索道中継所

直径二十二ミリのライフライン

現在の東端索道中継所

とうたんさくどう
東端索道ちゅうけいしょ中継所は、とうなる東平～はでば端出場間の索道の中継所です。

この中継所の役割は、両地点が直線で結ばれていなかったために、索道のロープ(直径22ミリ)の方向転換するためのものでした。

東端索道は明治38年(1905)7月の建設当初、東平～くろいし黒石間を繋いでいましたが、昭和10年(1935)に東平～端出場間に変更されました。

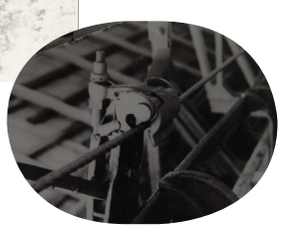
昭和37年(1962)
原 茂夫氏撮影

搬器に乗って点検作業を行う注油工

また、この中継所を境に、索道の取り扱い地域が変わっていました。この場所から下部を端出場が、上部をたいへい太平坑の索道も含め東平が管理していました。

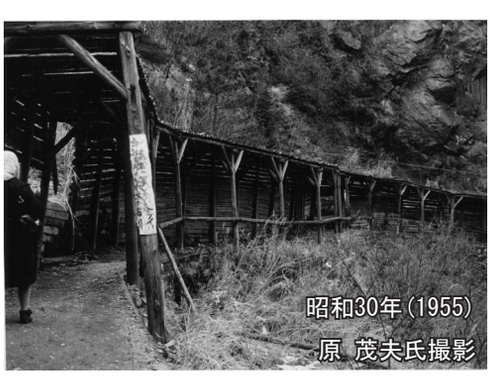
ところで、搬器には方向転換し易くするために、搬器がぶら下がるクリップの部分が搬器の自重によってロープを噛んで固定され、方向転換の際はロープから外れる仕組みになっていました。

東端索道場付近の様子　昭和30年(1955)　松浦 勲氏撮影


搬器のクリップ部分

また、索道の点検作業は注油工と呼ばれる特別の作業員が、搬器に乗ってポスト(索道用鉄塔)へ乗り移り、ポストの滑車の注油や、ポスト間のロープの痛みの点検をしていました。

東端索道のポストは26基ありました。1番高いポストは27.5メートル余りあり、低いところは2～3メートルでした。本来は搬器に人は乗れませんでした。


昭和30年(1955)
原 茂夫氏撮影

注意！！

中継所付近には右の写真の深さ10メートル近くの穴があります。
危険ですので立ち入らないで下さい。

これな～んだ？

東平～端出場間を結んでいた東平街道に設置されていて、索道と関係あるものです。

答えは、裏にあります。

http://nmh.hearts.ne.jp/k/gaidobook/030/index.htm